

ちやのんば(宮崎県高原町)

(構成：高原町、NPO 法人たかはるハートム
自治会、老人クラブほか)

《活動主体の概要》

総人口： 9,443人

高齢者数： 3,415人

世帯数： 4,407世帯

産業構造： 就業人口を産業別に見ると1次産業が約27.7% 2次産業が約22.0%、
3次産業が約49.9%(H22.10.1現在)

地理的構造： 宮崎県の西南に位置し、鹿児島県に隣接 面積は85.38km²



活動のきっかけ

平成20年に近隣の西諸地域(小林市・えびの市・高原町)の有志(その後、高原町の有志でNPO法人たかはるハートムを設立)で自殺対策の一環として「1日30人と話そう」という活動を始め、その活動の延長線上にこの「茶飲み場(ちやのんば)」が生まれた。現在は、自殺防止のみならず高齢者等の見守りでも効果を上げる事業へ発展している状況である。

ある日、有志の一人が通りすがりの人に何気に声を掛けると、後日、その人から「実は自殺を考えた。しかし、あなたと話したことで、また、頑張ってみようという気になった。ありがとうございました」との手紙が届いた。ここから、「話をすることは自殺防止に効果がある!」との一つの正解を得て、話をする場所である「茶飲み場」を各地区で開設することになった。

活動方法

高原町内で15か所に開設された「茶飲み場」で月2回を基本に開催されている。開催場所は公民館を主として、民家で行っているところもある。各茶飲み場には、「世話人」と位置付ける人が2人~10人程度おり、主な仕事はお茶を入れることである。「茶飲み場」の内容としては、集まった人たちでお茶を飲んで話をするのが主で

あり、昼食を一緒にすることもある。

また、「茶飲み場」に来ることができないが、話をしたい人、或いは特に見守りが必要と判断した人に対しては、ボランティアにより“その方のお話を聞きます”という「お話し相手」訪問も実施している。2人1組で1日4~5軒、一人暮らしのお年寄り宅を中心に戸別訪問を行っている。

工夫点

各地区とも状況(区民数、公民館までの距離、区での「茶飲み場」に対する理解度等)は様々で、一律的な運営は困難であることや、行政が運営に直接介入すると、非常に堅い運営となるため、各地区の状況に応じた柔軟な事業運営ができるNPO法人たかはるハートムに業務委託している。

その事業運営の中での特段の工夫点は、「お茶を飲んで、話をする」ことに集中していることであり、体操教室、歌を歌う、講座といったことを極力排除し、高齢者同士のゆるいつながりを重視している。

また、「お話し相手」訪問では、電話などはせず、突然訪問している。あらかじめ電話すると身構えてしまうので、できるだけふらっと、行くように心がけている。訪問する回数は、月に数回や数ヶ月に1回な

ど、その方の状態に合わせて変えている。

成果

この「茶飲み場」が地域で本格的にスタート(平成24年9月～)したことで、「あの人も茶飲み場にすればいいのにどうしているのかしら?」「今日は姿が見えないけど　さんはどうしたのかな?」といったように、地域の高齢者に対しての目配り気配りが非常に鋭敏なものとなった。

高原町の自殺者は年間2人～7人で推移しており、平成23年には12人と急増したが、「茶飲み場」が始まり、平成24年には1人に激減し、その後も低い水準にとどまっている。

なお、直近3年間で延べ利用者数の推移は、各地区茶飲み場(平成24年:5,289人、平成25年:6,795人、平成26年:7,857人)、「お話し相手」訪問(平成24年:703人、平成25年:759人、平成26年:1,086人)である。



課題

この「茶飲み場」事業があることで、高原町の高齢者等の見守りのレベルは、はるかに高いものとなっている。

課題としては、事業の継続性であり、NPO法人たかはるハートムを軸に行政・民間・地域が連携しているこの事業体制を維持しつつ、さらに発展し、地域の見守りのレベルをより高めていくことが非常に重

要と考えている。

代表者、事業者等の声

【代表者の声】

事業開始から約5年経ち、各地域で“居心地良く、話しをする”場所をいかに提供するかにだけ集中して事業運営を進めてきたが、変化する時代の中で多重の見守りネットワークの側面も担うようになってきたと考えている。

「茶飲み場」を例えて言うなら、高齢者を引き寄せる強烈な磁場のようなもので、このことは、逆にその磁場に引き寄せられない高齢者をも浮き彫りして、地域での高齢者の見守りのレベルを格段に上げることにつながっていると考えている。

(NPO法人たかはるハートム 代表 谷山天一)

【利用者の声】

～笑っているのを見ているだけでいい～
牛を養っている頃はいろいろとやることができましたが、やめてからは、することがなく寂しく感じるが多くなりました。

茶飲み場に行くと、いろんな話を聞くことができるのでとても楽しいです。耳が遠いので、みなさんが何をしゃべっているのか聞こえないことも多いのですが、みなさんが笑っているのを見ているだけで楽しくなります。

行政班だと地域の枠組みが決められてしましますが、茶飲み場は隣の班や地域の人が来たりして、さらに多くの人と交流ができるので楽しいです。

私にとって茶飲み場は生きがいになっています。次の茶飲み場を目標に毎日を頑張っています。

(兼 山トシエさん)